

特集1

サンテックパワージャパン戦略発表記者会見を開催 (2016年2月24日@ホテルサンルートプラザ新宿)

サンテックパワージャパンとして初となる記者会見を開催 ～30名を超える報道関係者が参加～

サンテックパワージャパン 新体制発足から半年

冒頭は、昨年7月末に就任した高 瞻（ガオ ジャン）取締役社長より、サンテックパワージャパンの新体制が紹介され、35年の国内実績を武器にスピード重視の経営を目指すことが説明されました。さらに2015年の業績に関する速報（売上15%増、出力14%増、いずれも前年比）や、注力事業、主な製品発表などについての情報がアップデートされました。また、LEDや地中熱ヒートポンプなどSFCEグループの傘下にある多くの関連企業にも言及し、総合エネルギーソリューションを構築していくことを強調しました。



サンテックパワージャパン
取締役社長 高 瞻(ガオ ジャン)

新たなコーポレート戦略「太陽光+a」

また今後の事業戦略としては、ゼロエネルギーハウス、エネルギー自給不足、停電・災害対策、長期安定的発電、遊休地の活用などの社会的ニーズに応えるために、「住宅」「都市と社会」「産業」の3つのセグ

メントに対して太陽光を中心とした「プラスアルファ」のソリューション提案を進めていくことが説明されました。



住宅 都市と社会 産業

産業向けの「太陽光+a」 メテオコントロール社製「遠隔監視システム」を販売開始

ガオ社長に続いて山時取締役が登壇。産業向け「太陽光+a」ソリューションとして、独メテオコントロール社製の遠隔監視システムを国内唯一の正規販売代理店として4月より発売することが発表されました。国産の再生可能エネルギーとして今後ますます大きな役割を担うことが期待される太陽光発電所(メガソーラー)は、長期安定的な発電が必要とされており、O&Mサービスや遠隔監視のソリューションが必須です。30年以上にわたる世界実績をもつメテオコントロール社製の遠隔監視システムは、このニーズに応えるものとなります。会見では、この遠隔監視システムの最大の特長となる「バーチャル管制室VCOM」(クラウド型監視分析アプリ)を使ったデモも実演され、実際に稼働中の発電所の状況を見ながら様々な分析ができることが説明されました。会見に先立って2月上旬に発表されたサンテックパワージャパンのO&Mサービスでも、「遠隔監視」と「発電量分析」業務においてメテオコントロール社製の遠隔監視システムが利用されています。



遠隔監視システムの発表をする
取締役最高執行責任者 山時 義孝



クラウド型監視分析アプリ
「バーチャル管制室VCOM」画面



会場の様子

特集2

サンテックパワージャパン PV Expo 2016に出展 (2016年3月2日～4日@東京ビッグサイト)

新しい「太陽光+a」の提案と メテオコントロール社製 遠隔監視システムのデモに高い関心

サンテックパワーのブースは 「太陽光+a」をコンセプトにしたソリューション提案

2月24日の記者会見でお披露目をした「太陽光+a」のコンセプトのもとに、「住宅」「都市と社会」「産業」のゾーンに分かれたサンテックパワーのブースでは、従来の太陽光発電モジュールを中心とした展示ではなく、「ソリューション」の提案が中心となっていました。住宅向けコーナーでは、ZEH(ゼロエネハウス)の実現に貢献するソリューションとして太陽光発電システムのみならず蓄電システムやHEMSまでがトータルで提案されました。産業向けのコーナーでは新規で取り扱いが開始された大規模産業向け三相27.5kWパワコン(Huawei社製 SUN2000シリーズ)、小規



サンテックパワーのブース



パワーコンディショナ
Huawei製「SUN2000シリーズ」(上)
サンテックパワー製「GPS55B」(下)

模産業向け単相5.5kW屋外集中型パワコン(サンテックパワー製 GPS55B)が実機展示され関心を引きました。



木目や緑を使った商談ブース

人気を博した「遠隔監視システム×O&M」のコーナー

また同じく産業向けのコーナーでは、独メテオコントロール社の遠隔監視システムの実演デモに多くの関心が寄せられました。デモコーナーでは実際に稼働中の発電所(兵庫県)の稼働状況を管理画面で確認することができ、発電所の状況をその場で監視分析する様子が実演されました。



多くの人で賑わう
遠隔監視システム・O&Mのコーナー



クラウド型監視分析アプリ
「バーチャル管制室VCOM」デモ